

災害時リハビリテーション 支援体制モデル事業

北多摩南部地域リハビリテーション支援センター
武蔵野赤十字病院 リハビリテーション科
理学療法士 伊東 彰

はじめに

- 災害時リハビリテーション支援
体制モデル事業について
- 平成29年度は武蔵野市内での実施

リハビリテーション専門職種と しての災害対策の取り組み

- 災害派遣ではなく、被災側として
災害をとらえる
- 被災した立場でリハ職として
できることを構築する

リハビリテーション専門職種 としての災害対策の取り組み

- 発災直後～超急性期

救命

- 超急性期から急性期

避難所の立ち上げ

要支援者に対するサポート

避難生活改善

廃用症候群予防

- 慢性期～中長期

廃用症候群予防（日常生活の復帰）

平成29年度事業

- 救急法講習会の開催（救命）
- 武蔵野地域防災ネットワークへの参加
（災害の理解・避難所立ち上げ他）
- 災害時図上演習の開催（災害の認知）
- 災害時リハビリテーションネットワークの構築
- 武蔵野市防災計画への協力
- 武蔵野市民社会福祉協議会との協働
- 武蔵野市防災訓練に参加して

武蔵野市PTOTST協議会

- リハビリテーション関連職種の連携の必要性
- 市内在勤の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の協議会を設立した。

参加総数21施設 163名

理学療法士95名、作業療法士50名、言語聴覚士18名

日本赤十字社 救急法 基礎講習

- 目的

目の前の要救助者に対する応急手当の方法を会得する

- AED・人工呼吸法の講習会を開催

10/15 参加者 35名

救急法

(人工呼吸と心臓マッサージとAED)



自分たちの地域で災害について考える

- 地域の特性（地形・人口分布・産業）
- 災害時、何が起きるか？
- 災害時、どう動けばいいのか？

⇒ 『避難支援活動協力員養成講座』

受講

避難支援活動協力員養成講座

- 武蔵野地域防災活動ネットワーク
(COSMOS主催)
- 災害を知る (災害時図上演習 DIG)
- 避難所開設シミュレーション
- 避難所における要配慮者対応
- 避難所における公衆衛生
- 避難所における心のケア
- 車中泊避難の危険性

DIG（災害時図上演習）とは

- 参加型の防災ワークショップ形式で
 - 『災害を知る』
 - 『まちを知る』
 - 『ひとを知る』
- 『防災意識を掘り起こす』、 『町を探求する』
『災害を理解する』

担当地域の被害状況を理解する

- 地図を眺める
- 発災時に人がどう動く
- 火災はどうなる（類焼する・しないなど）
- 起こりうる被害を書き込む（A4の紙）

⇒災害に対してリアリティを持てる
⇒災害をより身近に感じることが
できる

避難所開設シミュレーションを 通して

- 避難所の開設プロセスを知る
- どのような業務が発生するのか
- どのような人材が必要なのかを探る

- リハ職をどのように配置するかで安全かつ効率的に避難所運営が可能になるかを理解した

避難所の運営を勉強して 1

- 避難所の種類

- 一般避難所 小・中学校の体育館など
雑魚寝・プライバシーなし

- 思いやりルーム（福祉避難室）

専門的なケアは必要ないが一定の配慮が必要な避難者のために一般避難所とはべつの独立した部屋（音楽室など）多少のプライバシーには配慮

- 福祉避難所

特別な配慮やケアを必要とする災害時要介護者を老人保健施設・障害者施設に収容

避難所の運営を勉強して 2

ーリハ職にできることー

•急性期

- 避難してくるのは健常者だけではない
- 失語症の人がいたら？
- 片麻痺・脊損・盲目・聾啞の方etc.
- 疾病・障害に詳しい人がいれば、避難先の選別がしやすい

•亜急性期～慢性期

- 不働・寡働の運動・仮設住宅の手すりなど

武蔵野市でのDIGの開催

- 武蔵野市の防災情報マップを使用して、災害時図上演習の開催

平成30年3月2日（金）開催

約40人参加

武蔵野市でのDIG



DIGの情景



好評のうちに終了
災害に対してより具体的
に考えられるようになった

災害時リハビリテーション ネットワークの構築

各協会・ボランティア団体・介護保険事業所等
とのネットワーク構築の必要性

人的資源⇒社会福祉協議会にリハ職を派遣
(ボランティアセンターなど)

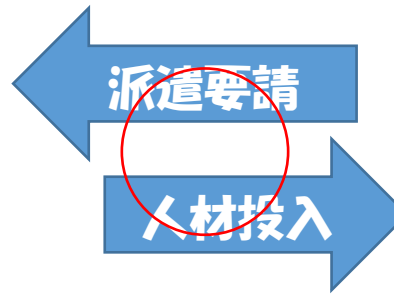
物的資源⇒武蔵野赤十字病院に送付
(支援物資)

各避難所⇒訪問リハ・通所リハ担当者で分担
(ニーズチェック)

災害時のリハビリテーション 関連職種のネットワークイメージ

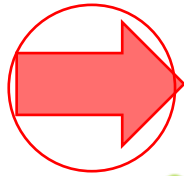
ボランティアセンター

リハ職配置
リハビリ関連職の受付・配置



在宅スタッフ

体操指導
環境整備（手すりなど）
物品調整
リスク管理



避難所



仮設住宅

病院リハスタッフ

入院患者のリハ
転院サマリの作成
物品の整理・受け出し



全国から送付

災害時の情報交換ツールの模索

- 被災時のインフラ復旧によって

使える情報交換ツールを模索しておく

- ライフラインの復旧の順番（熊本地震の時）

1. 電気（約1週間）
2. 水道（10～20日）
3. ガス（20～30日）

- 通信インフラの復旧

携帯電話 ケーブル・基地局の破損、移動基地局の配備

東日本大震災 2か月後

熊本地震 3日後

（「00000japan」の開放）



移動基地局車

以上を踏まえて

- インターネット上での情報交換ツールの構築
- スマートフォン・パソコンで情報のやり取りができるようなツールの構築
- 避難所にいるリハビリテーション関連職種からキーステーションにいるスタッフへの連絡手段の構築

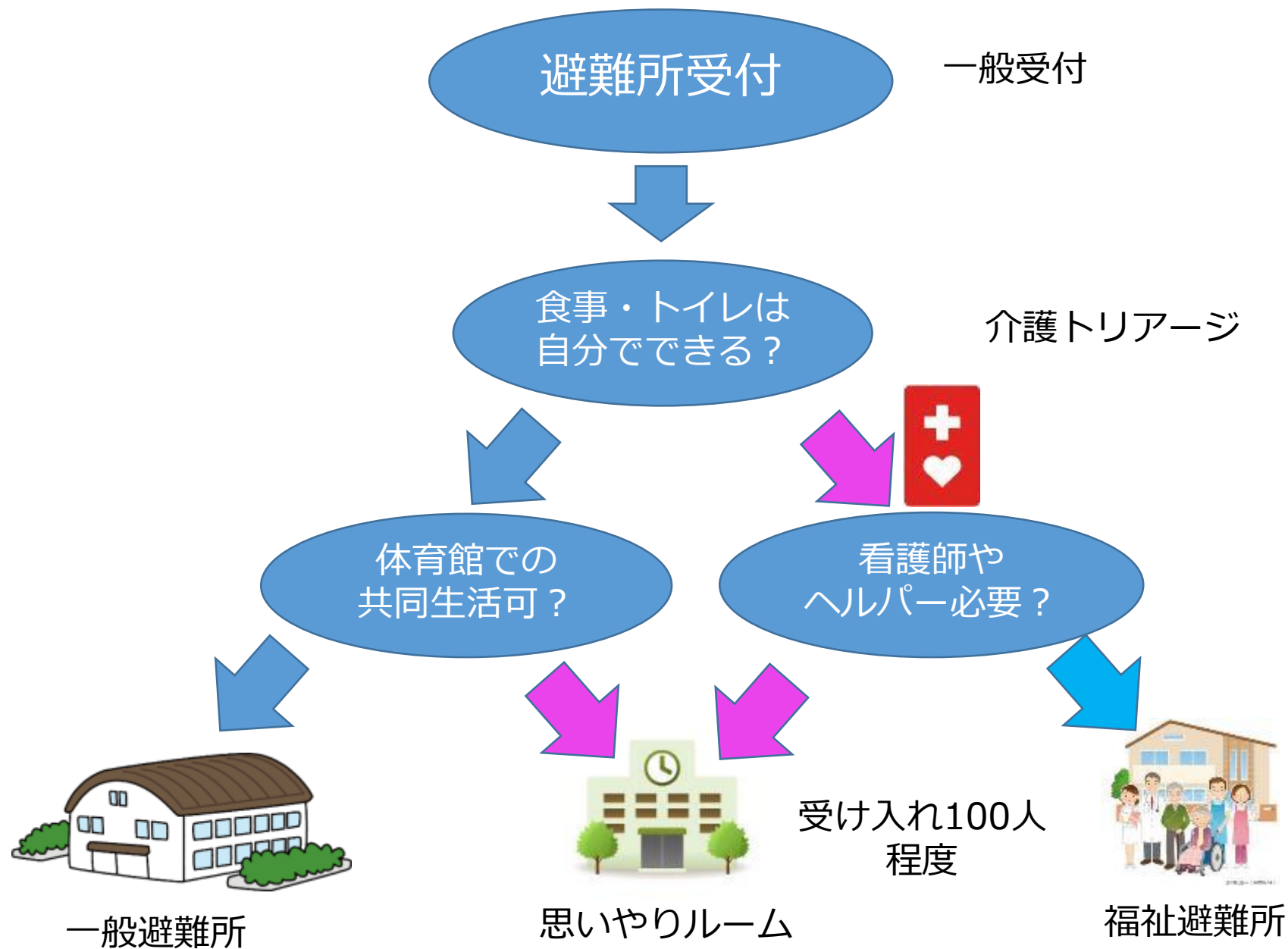
武蔵野市防災訓練に参加して

- 武蔵野市の防災訓練を通して
リハビリテーション関連職種でできること、
しなければならないことを探る
- 介護トリアージについて（武蔵野市独自）

防災訓練の概要

- 開催日時 2016年10月30日（日）
- 訓練内容 福祉避難所との通信訓練及び寸劇方式による介護トリアージ（仮称）訓練
- 介護トリアージ（武蔵野市独自）
（一般避難所・思いやりルーム・福祉避難所・医療機関への振り分け）
 - ※思いやりルーム（福祉避難室）
 - 一般避難所（体育館など）とは別
 - 高齢者・妊婦・障害者など一定の配慮が必要な避難者向
 - 避難所内に（建屋1F・アクセス良）を設置
 - ※福祉避難所
 - 特別な配慮や専門的ケアを必要とする災害時用援護者向
 - 特別養護老人ホーム
デイサービスセンターなど市内17か所

介護（要支援者）トリアージフロー概念図



介護トリアージの様子

思いやりルーム
の立ち上げ



介護トリアージの模擬訓練



今年度の活動

- 北多摩南部保健医療圏への展開
 - DIGの開催（府中市・狛江市）
 - BCP（業務継続計画）の策定

北多摩南部 2次保健医療圏への 展開の問題点

- 圏域内6市を1支援センターで
直接網羅することは困難
- 各自治体ごとに防災計画に特徴がある
 - 消防団の発達しているところ
 - 自治会の発達しているところ・ないところ
 - 各医師会とのつながりがない中での連携構築が
困難

対策と計画

- 圏域6市

リハビリテーション関連職種協議会（仮称）

設立支援

各自治体単位で協議会を設立して、地域に対するリハビリテーションの細かい支援体制の構築を図る

北多摩南部2次保健医療圏

- 狛江市
- 調布市
- 三鷹市
- 府中市
- 小金井市
- 武蔵野市
- 95.82km²
- 人口1,001,519人
- 65歳以上は19.6%



北多摩南部 2次保健医療圏の リハビリテーション関連職種協議会

- 小金井市 『小金井リハビリ連絡会』
- 三鷹市 『三鷹市リハビリテーション協議会』
- 調布市 『ちょうふ地域リハビリテーション
連絡協議会』
- 府中市 『府中リハビリテーション協議会』
- 狛江市 『狛江市リハビリ連絡協議会』
- 武蔵野市 『武蔵野市PTOTST協議会』

府中市でのDIGの様子



参加者	32名
PT	17名
OT	6名
ST	1名
Nrs	3名
CM	4名
その他	1名

狛江市でのDIGの様子

DIGのそのあとは？

- 自身の勤務地、居住地の被害想定ができた
- 次に求められるのはどう行動するか
- 1. 自身の安全確保
- 2. 自分の仕事の継続
 - 優先すべき仕事の明文化
 - 現実味を持った事業計画の策定

BCP（事業継続計画）とは？

- 災害発生に対応し、事業を復旧・再開し、あらかじめ定められたレベルに回復するように組織を導くように文書化された手順である。
- 東京都防災計画の中にも言及されている
- 特に医療関係では発災時には救急対応が課されるため、より早い業務の復旧が望まれる

DIGとBCP

- DIGは自分の生活圏内でどういった災害でどのような被害が出るかを想定するもの
- BCPは災害によって発生した被害の中からどのように自らの事業を再開し、いち早く復興していくかを計画するもの

老人保健施設

- 高齢者施設（老人保健施設・特別養護老人ホーム等）は福祉避難所になる
⇒福祉避難所運営に対するBCP作成の必要性
- 武蔵野市内では高齢者施設14ヶ所、
障がい者施設3ヶ所、保育園15ヶ所

BCPは未整備のところが多い

事業所（訪問看護・訪問リハ）

- 事業のいち早い復旧の必要性
- 救急対応の必要性はない
- 利用者の安否確認から

- BCPは未整備のところが多い

BCPの策定なくして 避難所は回れない

- BCPの策定を行わないと必要なマンパワーがわからない
- そのうえで避難所めぐりができるかどうかが決まる
- 避難所に必要な人員をどのようにして定期的に供給するか
- 足りない分をボランティアで補充する

